

二年後の夏

「二年後の夏が本番」と狙いを定めて開始した事業があります。5月1日発行の市報『予算特集号』の9頁、「東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、首都圏を中心に雪資源の活用による環境にやさしいエネルギーと南魚沼市の魅力をPRします」とした企画プロモーション事業です。

真夏に行われる大会では、選手や役員、スタッフはもとより、多数の観客への暑さ対策が大きな課題になっています。さまざまな対策は講じられると思いますが、そこに雪の活用は？世界の耳目が集まるスポーツの祭典。千載一遇の好機に、私たち雪国の助力・参画があり得るのではないかとその思いつきが構想の発端でした。

どんなことを考えるか。まずは真夏の競技会場や周辺に雪を運び込み、雪室の構造をアピールする小型パビリオンを設置。暑さ対策にクリーンで究極の自然エネルギーで冷気・冷風を提供。農産品や

特産品のアピールも。例えば、日本を象徴する花である桜。その枝を雪室で貯蔵した場合、開花期を調整できるという研究が進められています。世界のアスリートや観客を満開の桜花で歓迎することができるかもしれません。世界各国の報道機関の前で、雪国の力を大いに発信できるのではないかと。

まずはこの夏から。7月6日(金)・7日(土)に南魚沼市で『雪の市民会議』という全国シンポジウムが開催されます。開催地として、この会議でプロジェクトの提起と参加を呼び掛けたい。今なお負のイメージを持たれる降雪地域発のクルジャパン演出で「胸を張りませるか！」と。

活況を呈する東京都渋谷区と連携して、当市が「まず隼(はやぶさ)より始めよ」で先駆けてみます。夢は多くの自治体の参加。その参加機運づくりにもつなげたい。その先にある当市のインバウンド振興、新たな産業創出につなげたい。道なき道ですが、雪国南魚沼市の挑戦の一步と考えています。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～ boast of my country ～

シリーズ
第62回

ウガンダ共和国 ニドイ サンドラ ナブクワシ さん



私の国はこんなところ

私は、ウガンダの首都カンパラから来ました。カンパラは「アフリカの真珠」として有名です。なぜなら、ナイル川が生み出す美しい自然景観や山々、赤道、国立公園、ゴリラやチンパンジーなど、人を引きつける美しい自然や地形などの観光スポットが、たくさんあるからです。公用語は英語ですが、56の民族がそれぞれの言葉でも話します。ウガンダの料理は、豆やピーナツ、鶏肉などで作ったシチューを、マトケ（青バナナの粉を料理した、マッシュポテトのようなもの）、チャパティ（小麦粉をこねて焼いた薄いパン）、キャッサバ（芋）、またはご飯と一緒に食べます。



ウガンダ共和国

[公用語]	英語
[首都]	カンパラ
[面積]	236,040km ² (80位)
[人口]	34,856,813人(38位)
[GDP(PPP)]	369億ドル(80位)
[通貨]	ウガンダ・シリング

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼はとても静かな環境で、山や田んぼ、畑の景色がきれいです。浦佐毘沙門堂裸押合大祭や地域の人のBBQがよい思い出です。冬の一面雪の景色は、感動するほどの美しさでした。人生初の冬と雪、さらにスキーやスノーボードまで体験できました。好きな食べ物は、うどんと焼きそばです。国際大学を修了したら南魚沼がとても恋しくなるでしょう。